

長岡京右京北辺四坊八町跡・  
上里北ノ町遺跡

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 二〇一三―一三

長岡京右京北辺四坊八町跡・上里北ノ町遺跡

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

2014年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



長岡京右京北辺四坊八町跡・  
上里北ノ町遺跡

2014年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、道路新設工事に伴う長岡京跡・上里北ノ町遺跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

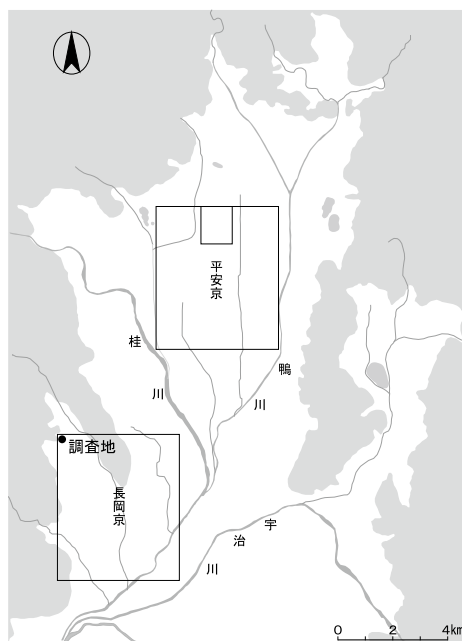
平成26年3月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所  
所 長 井 上 満 郎

# 例 言

- 1 遺 跡 名 長岡京跡・上里北ノ町遺跡（文化財保護課番号 01NG238）  
長岡京右京1079次調査（7ANUDE001地区）
- 2 調査所在地 京都市西京区大原野上里南ノ町地内
- 3 委 託 者 京都市 代表者 京都市長 門川大作
- 4 調査期間 2014年1月14日～2014年2月14日
- 5 調査面積 約183㎡
- 6 調査担当者 尾藤德行
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「石見」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した。）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
- 12 本書作成 尾藤德行
- 13 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、資料業務職員および調査業務職員があたった。
- 14 協力者 出土した埴輪について、花園大学の高橋克壽氏の御助言を頂いた。記して謝意を表します。

(調査地点図)



# 目 次

1. 調査経過	1
2. 位置と環境	4
(1) 調査地の位置と環境	4
(2) 周辺の調査	4
3. 遺 構	6
(1) 基本層序	6
(2) 遺構	11
4. 遺 物	12
5. まとめ	13

# 図 版 目 次

図版1	遺構	1	調査区全景、北部葺石検出状況（北から）
		2	南部葺石検出状況（北から）
図版2	遺構	1	拡張区全景（北東から）
		2	拡張区葺石・埴輪列検出状況（北西から）

# 挿 図 目 次

図1	周辺遺跡および調査位置図（1：10,000）	1
図2	調査区配置図（1：400）	2
図3	調査区調査前全景（北東から）	3
図4	拡張区調査前全景（北東から）	3
図5	調査区作業風景（南から）	3
図6	拡張区作業風景（北東から）	3
図7	調査区・拡張区平面図（1：200）	6

図8	調査区東壁断面図（1：100）	7
図9	調査区西壁断面図（1：100）	8
図10	拡張区断面図（1：100）	9
図11	調査区平面図（1：100）	10
図12	拡張区平面図（1：100）	11
図13	柱穴7実測図（1：50）	12

## 表 目 次

表1	遺構概要表	11
表2	遺物概要表	12



# 長岡京右京北辺四坊八町跡・上里北ノ町遺跡

## 1. 調査経過

今回の調査は、京都市建設局道路建設部道路建設課（以下「道路建設課」という。）による、3・3・5中山石見線道路建設工事に伴う発掘調査である。調査地は京都市西京区大原野上里南ノ町地内に所在し、上里北ノ町遺跡と長岡京右京北辺四坊八町に該当する。また、長岡京右京第1079次調査にあたる。

中山石見線は、洛西ニュータウン南端の東西通である竹の里本通と南北道路である福西本通の交差点から南に延長する新設道路で、南方の善峰川を横断し東西道路のⅠ・Ⅱ・3伏見向日町線に連結する計画である。伏見向日町線・中山石見線の予定地は2001年度の試掘調査から2009年度まで断続的に発掘調査が行われた。同じ中山石見線新設工事に伴う調査事例としては、図1のよう

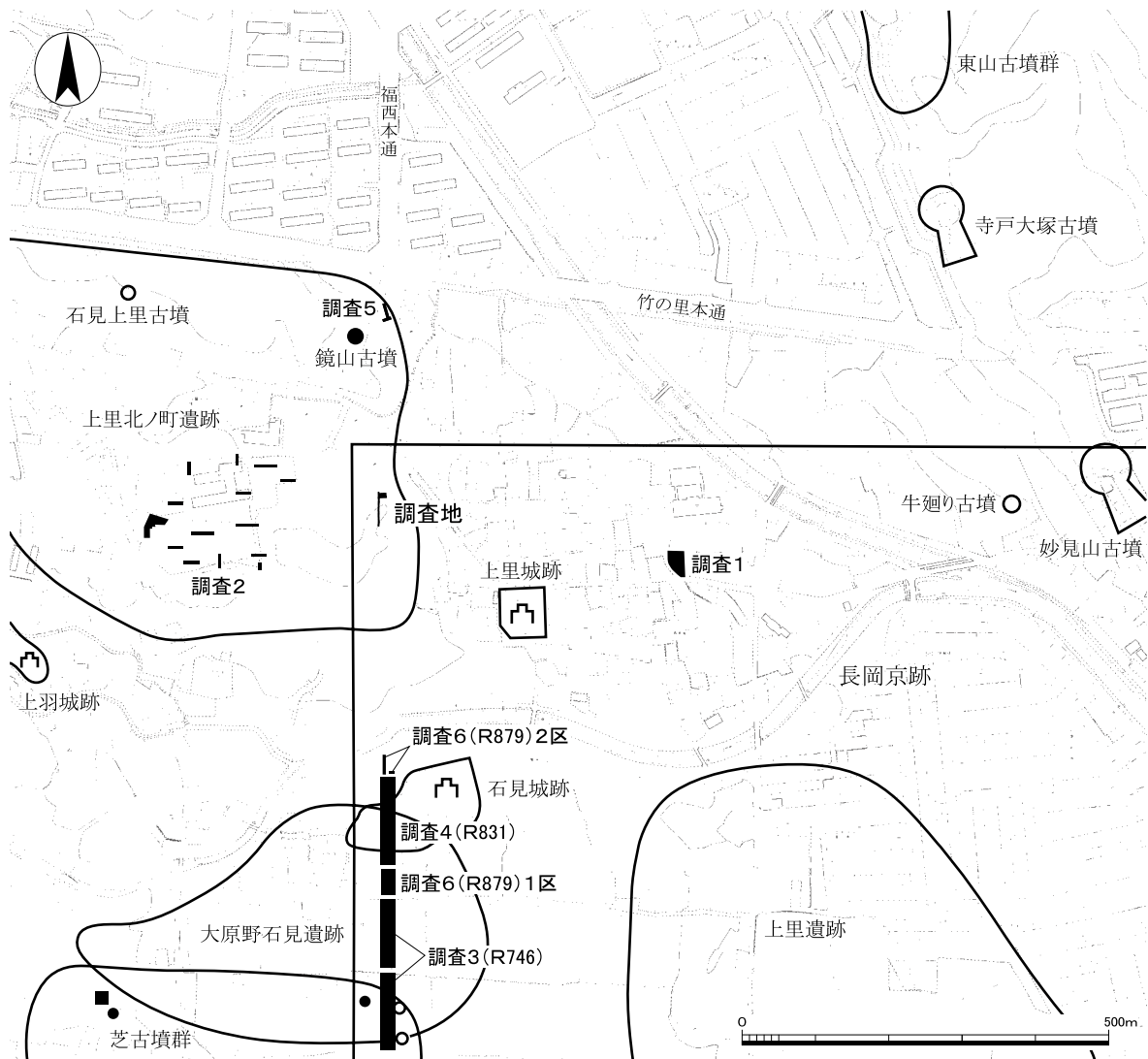


図1 周辺遺跡および調査位置図（1：10,000）

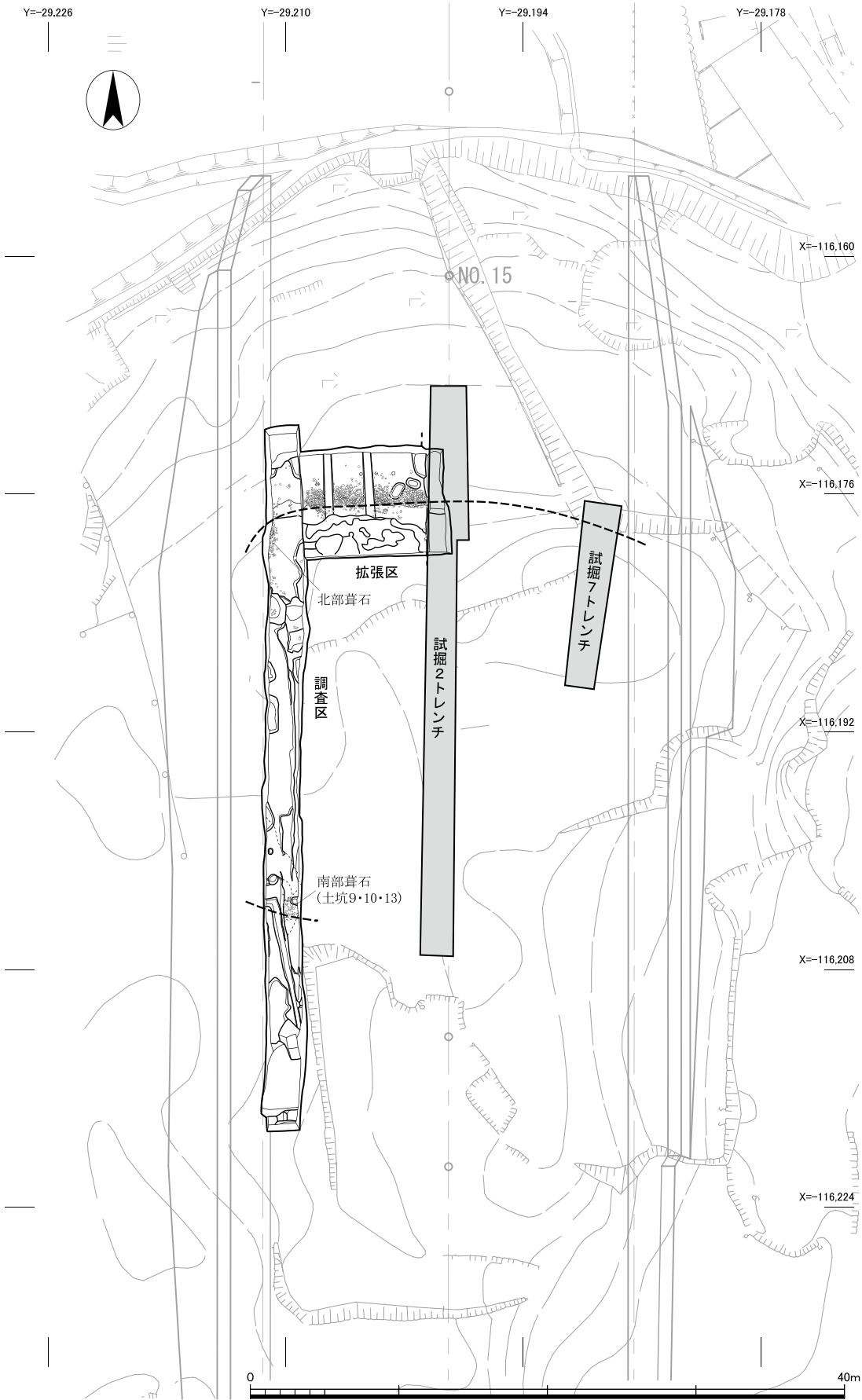


図2 調査区配置図 (1 : 400)

に2002年度の調査3（R 746）、2004年度の調査4（R 831）、2005年度の調査5、2006年度の調査6（R 879）と4箇所の調査事例がある。今回の調査地は調査5と調査6の中間地点に位置する。

今回の調査地は、長岡京跡や古墳時代から室町時代の遺物散布地である上里北ノ町遺跡の範囲に含まれることから、古墳時代から室町時代の遺構・遺物の検出が予想された。そこで、道路建設工事に先立ち、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という。）が、善峰川から北側の丘陵部分の試掘調査を行った。その結果、2トレンチの北半にて、古墳の葺石の一部と円筒埴輪・家形埴輪などを検出し、発掘調査が必要と判断した。そこで、古墳の範囲（規模）などを確認するために、道路建設課の委託を受け、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が発掘調査を実施した。

調査は、1月14日に現場事務所設営・重機搬入・調査区設定を行った。調査区は、葺石を検出した試掘調査2トレンチから約8m西側で、道路予定地西端沿いに幅約2.5m、南北約48mの約120㎡を設定した（図2）。最初に重機で地表下0.3～0.8mの竹林盛土部分を除去した。墳丘上部は竹林造成時に大部分が削平され、地山上面に拳大の礫がまとまって残存する部分を北部と南部の2箇所で検出した。これを古墳の葺石と考え、精査ののち、全景写真撮影・実測作業を行った。しかし、古墳の遺存状況や範囲が明確にならないため、文化財保護課の指導により、拡張調査を行うこととなった。拡張区は、今回の調査区と葺石・埴輪を検出した試掘調査2トレンチ北半との間に、南北約7m、東西約9mの約63㎡を設定した（図2拡張区）。再度、重機を搬入し、試掘調査時に



図3 調査区調査前全景（北東から）



図4 拡張区調査前全景（北東から）



図5 調査区作業風景（南から）



図6 拡張区作業風景（北東から）

検出した葺石の西延長部分および円筒埴輪列を検出し、拡張区の全景写真撮影・オルソー測量・断面実測作業などを行った。なお、今回の調査は遺跡（古墳）の範囲を確認するもので、次年度以降に改めて調査を行うこととなる。そのため、葺石部分などを不織布・真砂土で養生した。さらに調査区全面にシートを掛け、土嚢で固定し、調査区全体を排土によって重機で埋め戻した。2月14日にはすべての作業を終了した。

調査期間中に、適宜、文化財保護課の臨検を受けた。また、当研究所の検証委員である龍谷大学の國下多美樹氏、同志社大学の若林邦彦氏の臨検を受けた。

## 2. 位置と環境

### (1) 調査地の位置と環境

調査地の北東には小畑川が北西から南東に流れ、南側には善峰川が西から東に流れ、東方で小畑川に合流する。調査地は小畑川と善峰川の合流点から北西にある丘陵東端に位置し、小畑川の対岸である東側には向日丘陵が連なる。調査地は、上里北ノ町遺跡と長岡京右京北辺四坊八町に該当し、長岡京の北西に位置する<sup>1)</sup>。上里北ノ町遺跡は古墳時代から室町時代の遺物散布地で、その中には、後述する石見上里古墳や鏡山古墳がある。

調査地の北側には、古墳時代中期の鏡山古墳がある。鏡山古墳は直径30mの円墳で、豊富な石製模造品が出土している。北西には古墳時代後期の石見上里古墳がある。円墳で横穴式石室があったがほぼ全壊している。調査地の東方を流れる小畑川の対岸となる向日丘陵には多くの古墳が点在する。古墳時代前期の前方後円墳である寺戸大塚古墳は全長98m、妙見山古墳は全長114mある。また、古墳時代後期の円墳である東山古墳群・牛廻り古墳などがある。向日丘陵南部の向日市側には、古墳時代前期の前方後円墳の五塚原古墳（全長91m）、前方後方墳の元稻荷古墳（全長94m）がある。南方には室町時代の城跡である上里城跡・石見城跡・上羽城跡、旧石器時代・縄文時代から古墳時代の大原野石見遺跡、縄文時代から室町時代の集落跡である上里遺跡がある。南方の芝古墳群には前方後円墳・方墳・円墳などがある。今回発見した古墳は、これらの古墳を臨む丘陵地の東端に立地していることがわかる。

### (2) 周辺の調査

周辺には、6度の発掘調査事例がある。1989年度の調査<sup>2)</sup>は、竹ノ里小学校分校（現在の上里小学校）の試掘・発掘調査である。調査地の東側で小畑川の旧流路とともに遺物包含層や溝状遺構を検出した。遺物包含層や遺構からは、6世紀後半から10世紀中頃までの遺物が出土した。古墳時代の須恵器杯身は、完形品で磨滅がほとんどない。1992年度の調査<sup>3)</sup>は、上里中学校（現在の大原野中学校）の発掘調査である。14箇所の調査区を設け、確認調査を行った。多くの調査区は遺構面が竹林の土入れに伴う掘削により削平をうけ、明確な遺構を検出することができなかったが、1トレ

ンチでは拡張調査し、中世の南北2間・東西3間以上の掘立柱建物、土坑、溝、柱列などを検出した。遺物は、ほとんどが土器類で、土師器、須恵器、緑釉陶器、瓦器、輸入陶磁器、国産陶磁器がある。溝から出土した土器類には、鎌倉時代の瓦器椀・皿や土師器皿などがある。

その他に、同じ中山石見線道路新設工事に伴い、調査3～6が行われている。2002年度の調査<sup>4)</sup>では、縄文時代後期から弥生時代前期、古墳時代前期の流路などを検出している。また、長岡京の一条条間南北側溝や鎌倉時代の集落跡などが検出されている。2004年度の調査<sup>5)</sup>では、縄文時代から古墳時代後期の竪穴住居、古墳時代後期から長岡京期の建物などが検出されている。また、鎌倉時代から室町時代の石見城に関連する建物など多くの遺構が検出された。縄文土器や弥生時代の石槍・石鏃なども出土している。2005年度の調査<sup>6)</sup>は、鏡山古墳のある丘陵の北東の裾部から小畑川へと低くなる段丘の接する地点である。調査では、近世の遺物包含層の検出に留まり、他の時代の遺構は検出できなかったが、平安時代から江戸時代の遺物が数点出土した。2006年度の調査<sup>7)</sup>では、古墳時代の土坑、長岡京期の建物、鎌倉時代から室町時代の土坑、江戸時代の建物、土坑、井戸などを検出している。

#### 註

- 1) 『京都市遺跡地図台帳【第8版】』京都市文化市民局 2007年
- 2) 長宗繁一「長岡京右京一条四坊」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 3) 加納敬二・永田宗秀「上里遺跡」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 4) 百瀬正恒・網 伸也『長岡京右京一条四坊十三・十四町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2002-2 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2003年
- 5) 南 孝雄・清藤玲子『長岡京右京一条四坊十五町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2004-15 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2005年
- 6) 卜田健司『上里北ノ町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2005-11 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2006年
- 7) 能芝 勉・田中利津子『長岡京右京一条四坊十四・十五町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-22 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2007年

### 3. 遺 構

#### (1) 基本層序

調査地は、標高約60.0mあり、東方を流れる小畑川と南方の善峰川に向かって低くなる丘陵地の東端に位置する。

調査前は竹林で、東壁の基本土層は、厚さ約0.6～1.0mの新しい時期の竹林盛土の下に、古い時期の竹林盛土があり、部分的に厚さ約0.1mの明褐色粘土（図8-26～28層）の遺物包含層がある。古墳の構築土と考えられる。その下は明褐色粘土やにぶい黄橙色粘土などの地山（図8-29～35層）となる。地山は北半では標高59.4mで検出され、北方と南方に向かって低くなる。

西壁では、厚さ約0.7～1.4mの新しい時期の竹林盛土の下に、厚さ約0.2mの明褐色粘土礫混（図9-22・23層）などの包含層がある。瓦器片や埴輪片が出土した。その下に部分的に厚さ約0.1mの黄褐色粘土など（図9-28～37層）の古墳構築土層があり、その下層は地山の明褐色粘土など（図9-38～42層）となる。地山は調査区北半では標高59.1mで検出され、東壁と同じく、北方と南方に向かって低くなる。

拡張区北壁では、厚さ約1.2mの新しい時期の竹林盛土の下に、厚さ0.4mの古い時期の竹林盛土がある。その下に厚さ約0.1mの褐色粘土礫混（図10北壁断面図-11層）がある。この薄い土層の下で埴輪列を検出した。標高約58.8m以下は地山の明褐色から褐色粘土礫混（図10北壁断面図-13層）となる。セクション断面の南端では標高約59.8mで同じ地山を検出している。

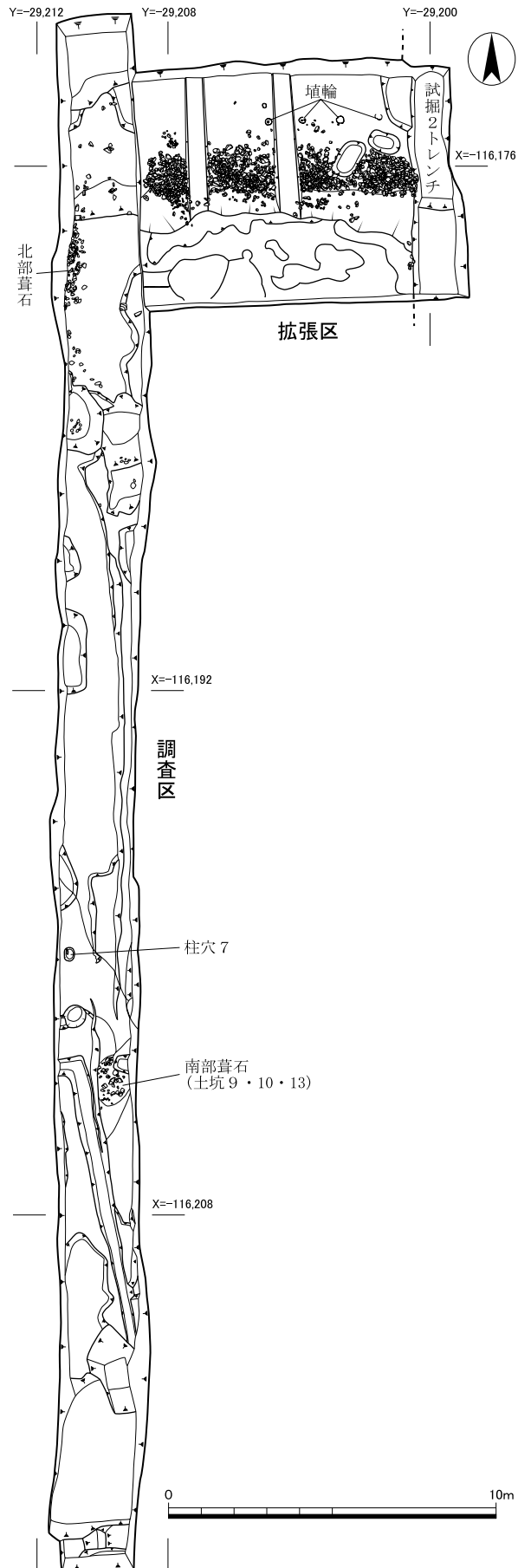


図7 調査区・拡張区平面図（1：200）



図8 調査区東壁断面図 (1:100)

- 1 10YR4/6 褐色粘土
- 2 7.5YR5/6 明褐色粘土
- 3 7.5YR4/4 褐色  $\phi \sim 20\text{cm}$ 粗砂礫
- 4 7.5YR4/6 褐色砂泥 粘質 粗砂礫少量混
- 5 10YR5/8 黄褐色砂泥  $\phi \sim 3\text{cm}$ 粗砂礫少量混
- 6 5YR4/8 赤褐色粘土
- 7 7.5YR5/6 明褐色粘土  $\phi \sim 1\text{cm}$ 粗砂礫混
- 8 7.5YR4/6 褐色粘土 粗砂混
- 9 10YR4/6 褐色砂泥 粘質  $\phi \sim 2\text{cm}$ 礫少量混
- 10 7.5YR5/6 明褐色砂泥 粘質  $\phi \sim 0.5\text{cm}$ 粗砂礫混
- 11 7.5YR4/6 褐色粘土  $\phi 1 \sim 10\text{cm}$ 礫少量混
- 12 7.5YR4/6 褐色砂泥  $\phi 1 \sim 7\text{cm}$ 粗砂礫少量混

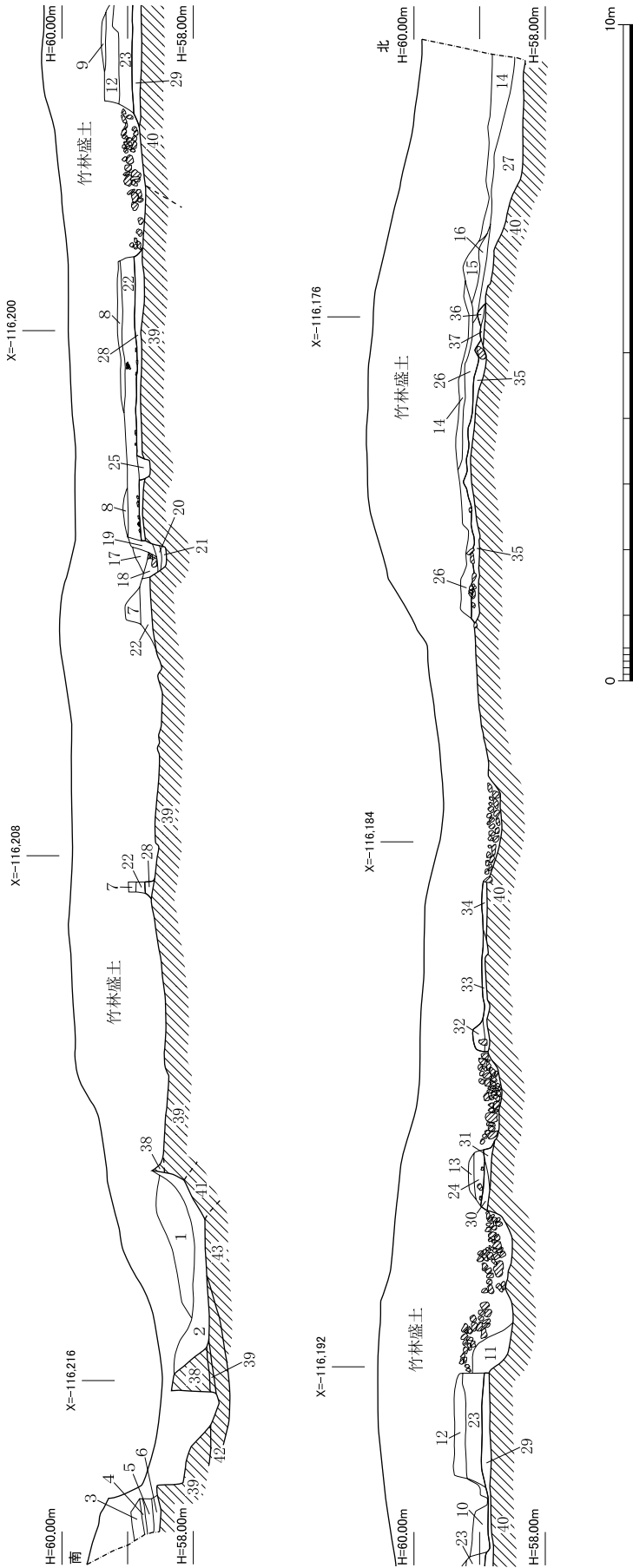
(竹林盛土)

(竹林盛土)

- 13 7.5YR5/6 明褐色粘土  $\phi \sim 5\text{cm}$ 粗砂礫少量混
- 14 7.5YR5/6 明褐色粘土 粗砂混
- 15 7.5YR5/6 明褐色粘土 粗砂混
- 16 5YR5/6 明赤褐色粘土  $\phi \sim 10\text{cm}$ 粗砂礫混
- 17 5YR4/8 赤褐色粘土 粗砂少量混
- 18 5YR4/8 赤褐色+2.5Y7/6 明黄褐色泥砂 粘質 粗砂少量混
- 19 7.5YR5/6 明褐色粘土
- 20 5YR5/8 明赤褐色粘土  $\phi \sim 1\text{cm}$ 粗砂礫混
- 21 10YR5/6 黄褐色砂泥 粘質
- 22 10YR5/6 黄褐色粘土
- 23 2.5Y6/6 明黄褐色砂泥 粘質  $\phi \sim 2\text{cm}$ 礫少量混
- 24 7.5YR4/6 褐色粘土(土坑未掘削)

- 25 7.5YR5/6 明褐色粘土  $\phi \sim 0.5\text{cm}$ 粗砂礫少量混(土坑未掘削)
- 26 7.5YR5/6 明褐色粘土(土坑10未掘削)
- 27 7.5YR5/6 明褐色粘土 10YR4/6 褐色粘土小ブロック混 粗砂混(土坑9未掘削)
- 28 10YR5/6 黄褐色粘土
- 29 5YR4/6 赤褐色粘土小ブロック多量混 粗砂混(土坑13未掘削)
- 30 7.5YR5/6 明褐色  $\phi 0.5 \sim 20\text{cm}$ 粗砂礫多量混
- 31 10YR5/6 黄褐色泥砂  $\phi 5 \sim 20\text{cm}$ 礫多量混
- 32 10YR7/4 にぶい黄褐色粘土 7.5YR5/6 明褐色粘土ブロック混
- 33 10YR5/8 黄褐色砂泥 粘質 2.5Y7/2 灰黄色砂泥 礫元ブロック混
- 34 2.5Y7/3 淡黄色泥砂 粗砂多量混
- 35 10YR5/6 黄褐色  $\phi \sim 1\text{cm}$ 粗砂

(地山)

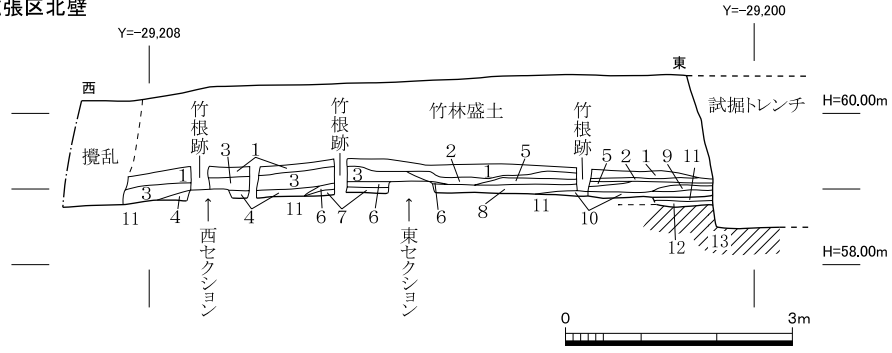


- |   |  |  |
|---|--|--|
| <p>1 7.5YR5/6 明褐色泥砂 φ5~20cm礫多量混</p> <p>2 7.5YR5/6 明褐色泥砂 粗砂多量混</p> <p>3 7.5YR5/6 明褐色泥砂 φ1~3cm礫少量混</p> <p>4 10YR6/6 明黄褐色粘土 砂少量混</p> <p>5 10YR5/6~5/8 黄褐色砂泥 φ0.5~1cm粗砂礫中量混</p> <p>6 7.5YR4/3~4/4 褐色砂泥 炭化物混</p> <p>7 10YR4/6 褐色砂泥 φ0.5~20cm礫多量混</p> <p>8 7.5YR5/6~5/8 明褐色粘土 7.5YR5/6 明褐色砂泥 粗砂多量混</p> <p>9 7.5YR5/6~5/8 明褐色砂泥 粘質 粗砂混</p> <p>10 7.5YR4/6 褐色粘土 φ10~20cm礫少量混</p> <p>11 7.5YR5/6~5/8 明褐色砂泥 粘質 粗砂混</p> <p>12 7.5YR5/6 明褐色砂泥 粘質 φ0.5~3cm粗砂礫中量混</p> <p>13 10YR4/6 褐色砂泥 φ~0.5cm粗砂礫混</p> <p>14 7.5YR4/6 褐色砂泥 粘質 φ~1cm粗砂礫混 炭化物多量混</p> <p>15 7.5YR5/6 明褐色砂泥 7.5YR4/6 褐色砂泥混</p> <p>16 7.5YR5/6 明褐色砂泥 粘質 φ1~5cm礫少量混</p> | <p>17 7.5YR5/6~5/8 明褐色砂泥 粘質 粗砂混</p> <p>18 7.5YR5/6 明褐色砂泥 微砂混 礫石残る</p> <p>19 10YR4/6 褐色泥砂 粗砂混</p> <p>20 7.5YR5/6 明褐色泥砂 φ0.5~3cm粗砂礫混</p> <p>21 7.5YR5/6~5/8 明褐色粘土 小礫混 下層面に填輪片多い</p> <p>22 10YR5/6 明褐色粘土 φ5~5cm粗砂礫少量混</p> <p>23 7.5YR5/8 明褐色粘土 φ~15cm礫少量混 填輪片混</p> <p>24 7.5YR5/6~5/8 黄褐色粘土 φ~2cm粗砂礫中量混</p> <p>25 10YR5/6 黄褐色砂泥 粘質 7.5YR5/6 明褐色砂泥ブロック混</p> <p>26 7.5YR5/6~5/8 黄褐色粘土 φ1~10cm礫少量混</p> <p>27 7.5YR4/6 褐色粘土 粗砂混 φ1~10cm礫少量混</p> <p>28 10YR5/6 黄褐色泥砂 φ1~10cm礫少量混</p> <p>29 10YR5/6 黄褐色泥砂 粘質 φ0.5~1cm粗砂礫混</p> <p>30 10YR5/6 黄褐色砂泥 粘質 φ0.5~1cm粗砂礫混</p> <p>31 10YR6/6~5/6 明黄褐色 粘質 φ0.5~1cm粗砂礫混</p> <p>32 10YR4/6 褐色砂泥 φ1~1cm粗砂礫混 φ10~15cm礫多量混</p> | <p>33 10YR5/6 黄褐色砂泥 粘質 粗砂混 φ3~5cm礫多量混</p> <p>34 7.5YR5/6 明褐色砂泥 粘質 φ3~10cm礫多量混</p> <p>35 7.5YR5/6 明褐色粘土 φ0.5~1cm粗砂礫混 φ5~20cm礫多量混</p> <p>36 7.5YR5/6~4/6 明褐色~褐色砂泥 粘質 φ0.5~3cm粗砂礫多量混</p> <p>37 7.5YR5/6 明褐色砂泥 粘質 φ1~3cm礫多量混</p> <p>38 7.5YR5/6 明褐色粘土</p> <p>39 10YR6/6 明黄褐色粘土・10YR5/6 黄褐色粘土ブロック混 φ1~15cm礫多量混</p> <p>40 7.5YR5/6 明黄褐色粘土</p> <p>41 10YR5/8 黄褐色砂泥粘質 2.5YR7/2 灰黄色砂泥 礫元ブロック混</p> <p>42 2.5Y7/3 淡黄色泥砂 粗砂礫多量混</p> <p>43 10YR5/6 黄褐色 φ~1cm粗砂礫</p> |
|---|--|--|

図9 調査区西壁断面図 (1:100)

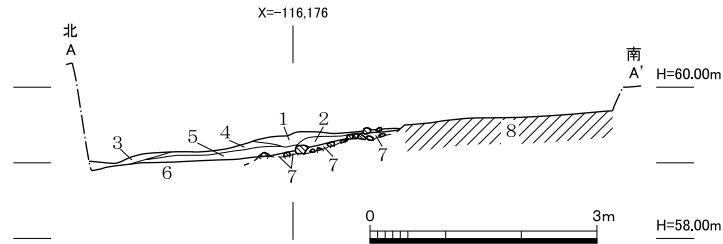


拡張区北壁



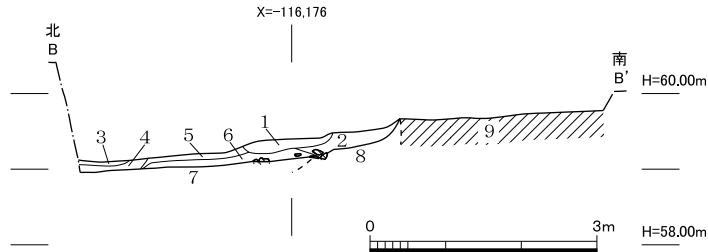
- |   |      |   |
|---|------|---|
| 1 7.5YR5/6 明褐色砂泥 粘質 炭化物混                      | 竹林盛土 | 9 7.5YR5/6 明褐色砂泥 粘質 粗砂混                                 |
| 2 7.5YR4/6 褐色砂泥 粘質 炭化物多量混                     |      | 10 7.5YR5/6 明褐色粘土 φ~0.5cm粗砂礫少量混                         |
| 3 7.5YR4/6 褐色砂泥 粘質 7.5YR5/6 明褐色粘土ブロック混        |      | 11 7.5YR4/6 褐色粘土 φ0.5~3cm粗砂礫少量混<br>(埴輪検出面) (古墳成立時の地表か?) |
| 4 7.5YR5/6 明褐色粘土 φ0.5~2cm礫少量混 炭化物混            |      | 12 7.5YR5/6 明褐色粘土 φ0.5~1cm粗砂礫少量混                        |
| 5 7.5YR5/6~5/8 明褐色砂泥 粘質<br>10YR6/6明黄褐色砂泥ブロック混 |      | 13 7.5YR5/6~4/6 明褐色~褐色粘土<br>φ1~5cm礫少量混 (地山)             |
| 6 7.5YR5/6 明褐色砂泥 粘質                           |      |   |
| 7 7.5YR5/8 明褐色砂泥 粘質 φ~1cm礫少量混                 |      |   |
| 8 10YR4/6 褐色砂泥 粗砂混 (竹林盛土か)                    |      |   |

拡張区西セクション



- |   |      |  |
|---|------|--|
| 1 7.5YR5/8 明褐色泥砂 粗砂混                    | 竹林攪乱 | 6 7.5YR4/6 褐色粘土 φ0.5~3cm粗砂礫多量混<br>(埴輪検出面) (古墳表土?)  |
| 2 7.5YR5/6~5/8 明褐色砂泥 φ~3cm粗砂礫少量混        |      | 7 7.5YR5/6 明褐色粘土 (葺石埋土?)                           |
| 3 7.5YR5/6 明褐色粘土 φ~3cm礫少量混 炭化物多量混(竹林盛土) |      | 8 5YR5/6~7.5YR5/6 明赤褐色~明褐色砂泥 粘質<br>φ1~20cm礫多量混(地山) |
| 4 7.5YR5/6 明褐色泥砂 微砂多量混                  |      |  |
| 5 7.5YR5/6~5/8 明褐色砂泥 粘質                 |      |  |

拡張区東セクション



- |                             |      |  |
|-----------------------------|------|--|
| 1 7.5YR4/6 褐色泥砂             | 竹林攪乱 | 6 7.5YR5/6~5/8 明褐色砂泥 粘質                            |
| 2 7.5YR4/4 褐色砂泥             |      | 7 7.5YR4/6 褐色粘土 φ0.5~3cm粗砂礫多量混(埴輪検出面) (古墳表土?)      |
| 3 7.5YR5/6 明褐色砂泥 粘質(竹林盛土)   |      | 8 7.5YR4/6 褐色粘土 粗砂多量混(葺石埋土?)                       |
| 4 7.5YR5/8 明褐色砂泥 粘質 φ~1cm礫混 |      | 9 5YR5/6~7.5YR5/6 明赤褐色~明褐色砂泥 粘質<br>φ1~20cm礫多量混(地山) |
| 5 7.5YR5/6 明褐色泥砂 微砂多量混      |      |  |

図10 拡張区断面図 (1:100)

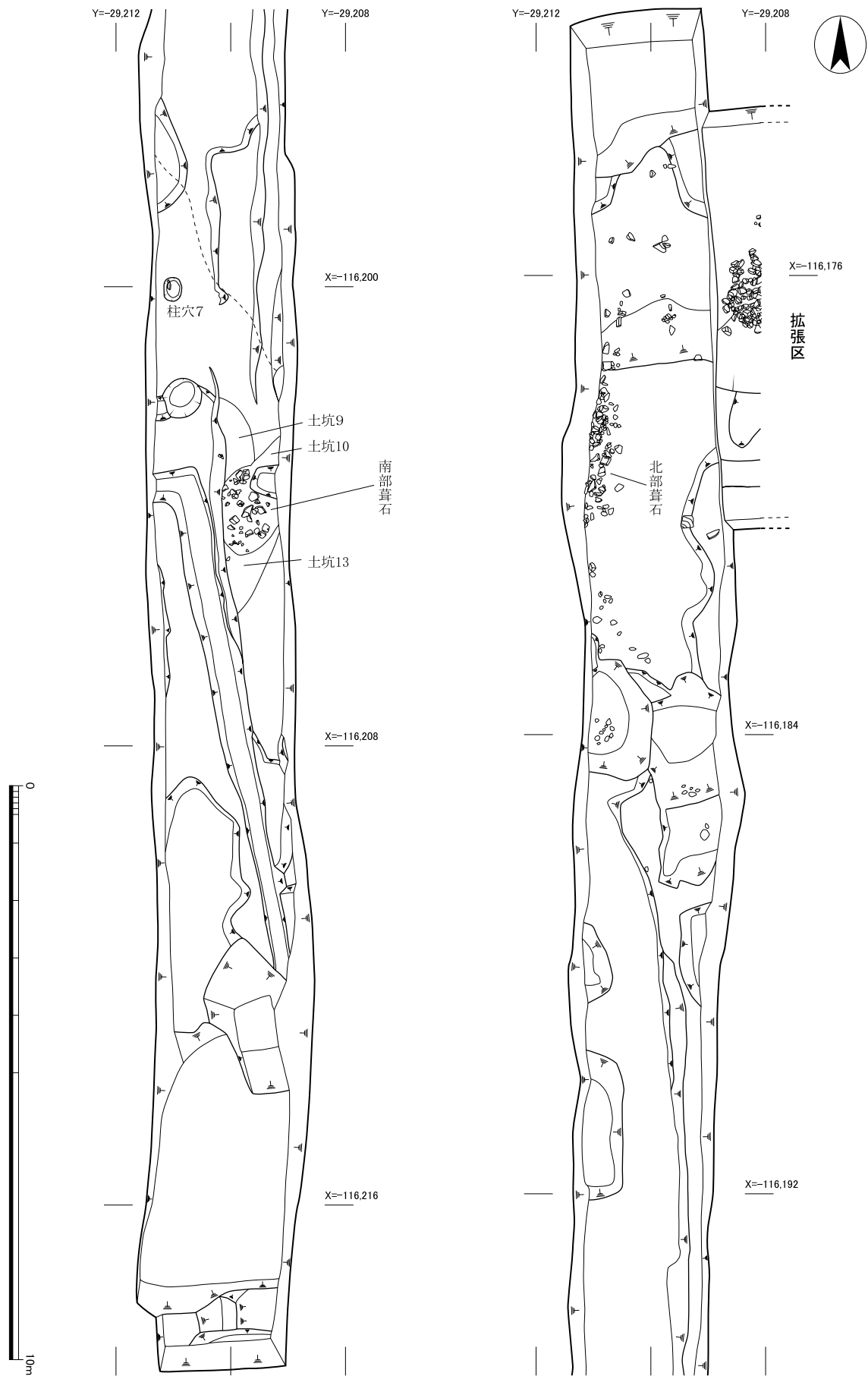


图11 調査区平面図 (1 : 100)

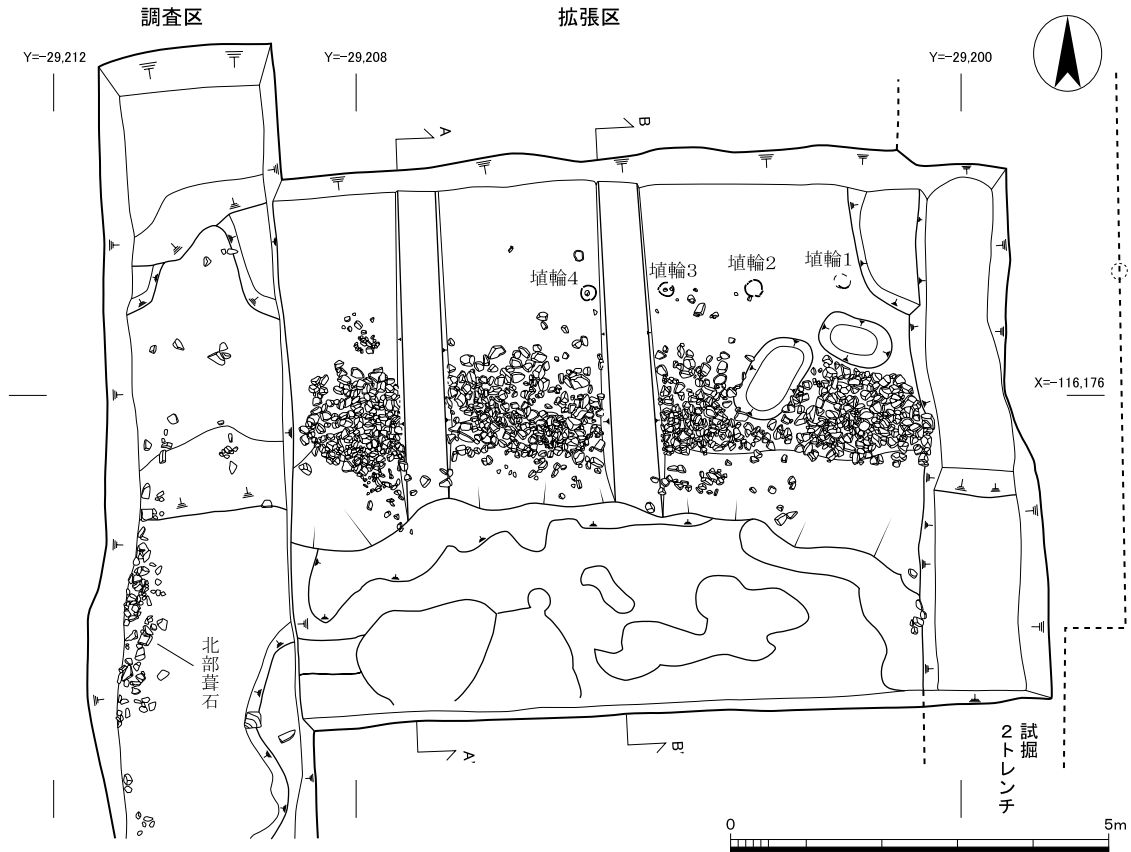


図12 拡張区平面図（1：100）

## (2) 遺構

調査区北側では古墳の葺石（北部葺石）、拡張区では葺石を東西約8.5m、南北約1.5mの範囲で検出した。また、拡張区葺石の裾から約1m北側で埴輪列を検出した。南側では葺石（南部葺石）を検出した。北側の葺石や埴輪列と南部葺石残存部分との距離は約28mあり、それらの分布状況から一辺約28m程度の方墳の可能性が考えられる。

**南部葺石**（図版1-2） 調査区北端から南約33m地点（約X=-116,204）の標高約58.9mで、南北約1.5m、東西約1.0mの範囲で、埴輪片やφ0.1～0.2mの石をまとめて検出した。古墳裾部の葺石が残存していると考えられる。

**北部葺石**（図版1-1） 調査区北端から南約8m地点の標高59.0～59.2mで、南北約2.5m、東西約0.5mの範囲で直径0.1～0.2mの石をまとめて検出した。石は元位置を保っていないものがあるが、古墳の裾部葺石と考える。

**拡張区葺石**（図版2） 試掘調査で検出した葺石の延長部分を、標高約59.0～59.5mで、南北約

表1 遺構概要表

時代	遺構	備考
古墳時代	古墳（葺石・埴輪列）	

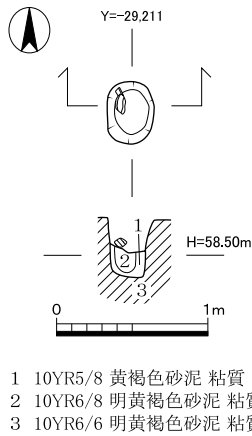


図13 柱穴7実測図（1：50）

1.5m、東西約8.5mの範囲で検出した。石は直径0.1～0.2mである。試掘時に検出した基底石と思われる石よりも外側まで葺石は広がる。

**埴輪列**（図版2） 拡張区葺石の裾から約1m北側で埴輪列を検出した。埴輪は直径約0.2mの小型の円筒埴輪で、基底部が残存する。東から埴輪1・2・3・4とした。埴輪1は円弧の一部を検出し、埴輪2・3・4はほぼ全周検出した。間隔は、心々間で1.2m・1.2m・1.0mある。埴輪は約1.2m間隔で設置されていたものと考えられる。

**柱穴7**（図13） 調査区南側にて、標高58.75mの地山面で検出した。

東西0.3m、南北0.4mの隅丸方形で、深さ0.4mある。埋土中央に拳大の石がある。遺物がなく、古墳に伴うものか不明確である。

**土坑9・10・13** 調査区の南部葺石の下層で検出した。それぞれ一辺約1.5～2.0mある。埋土は明褐色粘土層などで、表面に埴輪の小片が混入する。葺石を据えるとき掘形などが考えられるが、葺石の下層のため、そのまま埋め戻した。

## 4. 遺物

出土遺物は、大部分が埴輪で、少量の平瓦、瓦器椀、磁器壺が出土した。多くは竹林盛土などから出土したもので、整理箱に7箱出土した。なお、遺物の詳細は次年度以降の調査時にまとめて報告する。

古墳時代の遺物には、円筒埴輪、家形埴輪、蓋形もしくは靱形埴輪がある。円筒埴輪は、ハケ目調整・黒斑などは不明確であるが、形状から古墳時代中期前半頃と考える。家形埴輪は屋根の部分に線刻がある。試掘調査2トレンチから出土。蓋形もしくは靱形埴輪と思われるものには、四角の模様などが線刻される。拡張区の埴輪列付近の葺石埋土から出土。そのほかに、埴輪の小片は、竹林盛土や遺構検出時や南部葺石部分から出土した。

平安時代の遺物には、平瓦がある。布目と縄タタキ目がつく。重機掘削時に出土したもので、客

表2 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
古墳時代	円筒埴輪、家形埴輪、蓋形もしくは靱形埴輪			6箱	0箱
平安時代～江戸時代	平瓦、瓦器、磁器			0箱	1箱
合計		7箱	0点（0箱）	6箱	1箱

※ 遺物の報告は次年度以降の調査時に一括で報告する。

土したという竹林盛土に混入していた可能性がある。

鎌倉時代の遺物には、瓦器椀がある。調査区西壁の遺物包含層から出土した。この遺物包含層からは埴輪小片が出土しているが、瓦器椀の出土によって鎌倉時代以降と判明した。

## 5. まとめ

調査地北側には古墳時代中期の鏡山古墳、東方には小畑川を挟んだ対岸の向日丘陵に古墳時代前期の寺戸大塚古墳・妙見山古墳・元稻荷古墳・五塚原古墳などがある。今回発見した古墳は、これらの古墳を臨む位置に立地している。

今回の調査は、次年度以降の本調査のため古墳の範囲（規模）などの確認調査として実施した。その結果、北部葺石、南部葺石を検出し、拡張区では葺石や円筒埴輪列を検出した。出土した埴輪は鏡山古墳と同時期の古墳時代中期前半頃のものと考えている。北側の葺石や埴輪列が東西方向に直線的に並んでおり、方墳などの墳形が想定できる。その規模は、墳丘の北端となる拡張区葺石と南端と想定される南部葺石間の距離から少なくとも南北28mと考えられる。また、大小の円筒埴輪のほか家形埴輪や蓋形もしくは靱形と思われる形象埴輪が出土した。墳丘の中央部はすでに削平を受けている可能性が高いが、主体部や裾部が残存する可能性もある。立地や墳丘の規模などから、この地域の首長級の古墳と考えられ、今後の調査に期待される。



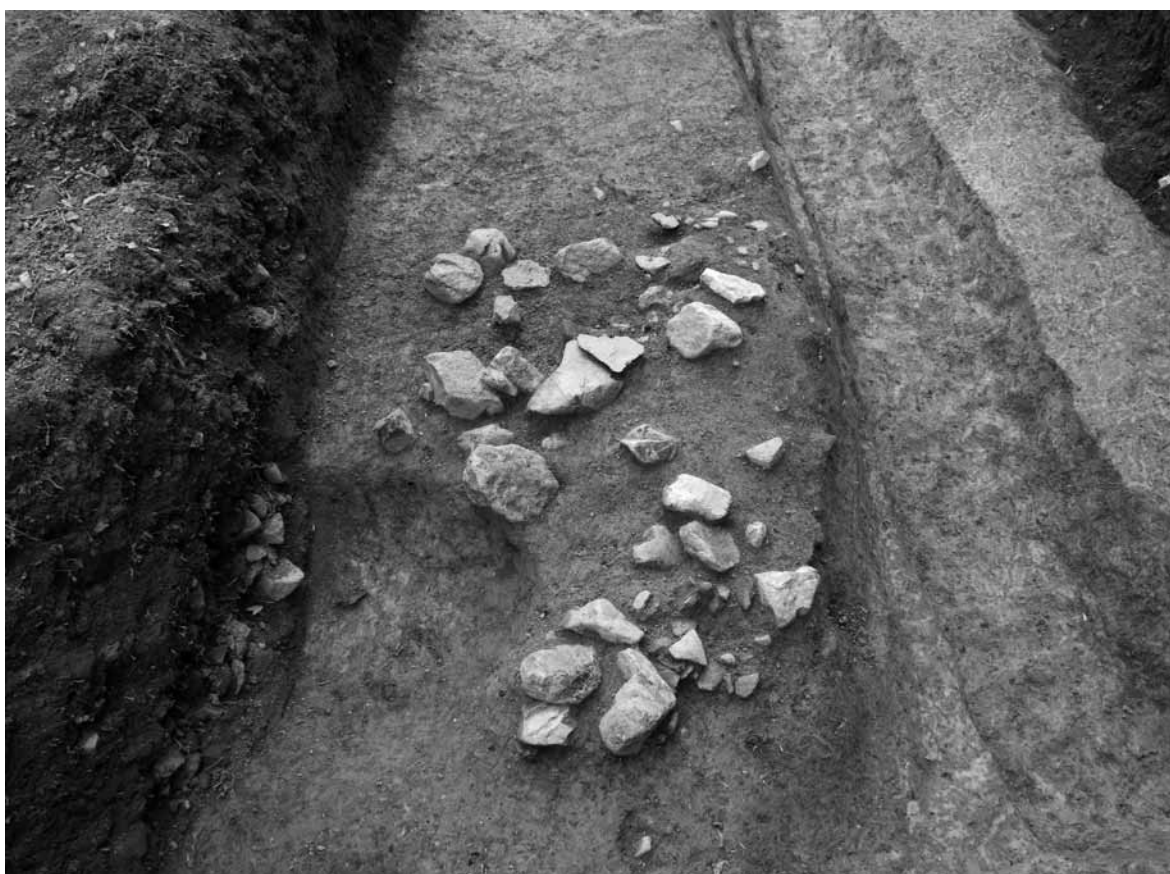
# 圖 版







1 調査区全景、北部葺石検出状況（北から）



2 南部葺石検出状況（北から）



1 拡張区全景（北東から）



2 拡張区葺石・埴輪列検出状況（北西から）

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	ながおかきょうきょうほくへんしぼうはっちょうあと・かみさときたのちょういせき							
書名	長岡京右京北辺四坊八町跡・上里北ノ町遺跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2013-13							
編著者名	尾藤徳行							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2014年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ながおかきょうあと 長岡京跡 かみさときたのちょういせき 上里北ノ町遺跡	きょうとしにしきょうく 京都市西京区 おおはらのかみさとみなみ 大原野上里南 のちょうちない ノ町地内	26100	3  1042	34度 57分 09秒	135度 40分 49秒	2014年1月 14日～2014 年2月14日	約183m <sup>2</sup>	道路新設 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
長岡京跡  上里北ノ町遺跡	都城跡  散布地	古墳時代	古墳	円筒埴輪、家形埴輪、 蓋形(靱形)埴輪		試掘調査で検出した 葺石部分を拡張 調査して、古墳の 範囲を確認した。 次年度以降に全面 調査し、遺物を含 めて報告予定。		

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2013-13

長岡京右京北辺四坊八町跡・  
上里北ノ町遺跡

発行日 2014年3月31日

編集  
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1  
〒602-8435 TEL 075-415-0521  
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地  
〒604-0093 TEL 075-256-0961